

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

研究進捗状況報告書の概要

1 研究プロジェクト

学校法人名	自治医科大学	大学名	自治医科大学
研究プロジェクト名	日本型地域ケア実践開発研究事業		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

目的・意義:自治医科大学はへき地等地域医療に従事する医師及び看護職の養成を目的としている。わが国は医師の負担増大と地域医療崩壊の危機に直面しており、チーム医療の推進と看護師の役割拡大への期待が高まっている。本事業の目的は、看護師がチーム医療の中で機能できるための卓越した地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発研究並びに地域特性に応じた当該看護師の教育・支援システムの開発研究により、日本型地域ケア実践を開発することである。本事業により、地域ケアを担う人材育成から教育・支援システムの構築まで日本型地域ケア実践が体系化されるとともに、わが国の地域医療における医師と看護師の協働モデルを提示することができ、地域医療の質向上と活性化に寄与する。

計画の概要:平成 25 年度はトレーニング対象とする地域ケアスキル及び教育体制検討のための調査の実施。平成 26 年度は地域ケアスキル・トレーニング項目・方法・教材の検討、トレーニングプログラム第 1 次試案の作成、教育体制の検討と標準的指針の作成。平成 27 年度は第 1 次試案の評価研究の実施、第 2 次試案の作成、地域特性別等の教育体制の検討、フォローアップ内容・医療組織支援内容の検討。平成 28 年度は第 2 次試案の評価研究の実施、トレーニングプログラム完成版の作成、地域特性別等のフォローアップシステムの検討。平成 29 年度は地域ケアスキル・トレーニングプログラムと教育・支援システムを併せた評価。

3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

平成 25 年度はへき地診療所看護師への質問紙調査、離島又は山村過疎地域にあるへき地医療拠点病院・診療所等への訪問調査およびグループインタビューから、へき地で働く看護職に必要なケアスキル及び教育研修体制のニーズと教育研修を阻害する要素等を明らかにした。

平成 26 年度は前年度の調査結果に基づいて、15 ケアスキル群のトレーニングプログラム及びどのケアスキル群においても必要となる臨床能力にかかわる 4 トレーニングプログラムの第 1 次試案を作成した。双方向性のある e ラーニングによる 6 ケアスキル群のトレーニングプログラムと臨床能力にかかわる 4 トレーニングプログラムを試行的に実施し、プログラムを評価し、地域特性や医療施設の機能の面から、本プログラムの受講可能性及び実践への有用性を検証した。

平成 27 年度は前年度のプログラム評価に基づき、11 ケアスキル群のトレーニングプログラムの完成版及びより双方向性を向上させた e ラーニングによる 4 ケアスキル群のトレーニングプログラムの第 2 次試案、集合演習や実習も組み合わせたブレンディッドラーニングによる臨床能力にかかわる 9 トレーニングプログラムの完成版を作成した。4 ケアスキル群のプログラムと臨床能力にかかわる 9 プログラムを全国のへき地診療等看護師を対象に周知・募集・実施し、地域特性や医療施設の機能の面から、本プログラムの受講可能性及び実践への有用性を検証した。

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

**平成 25 年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究進捗状況報告書**

1 学校法人名 自治医科大学 2 大学名 自治医科大学

3 研究組織名 大学院看護学研究科

4 プロジェクト所在地 栃木県下野市薬師寺3311番地159

5 研究プロジェクト名 日本型地域ケア実践開発研究事業

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
春山 早苗	大学院看護学研究科	研究科長

8 プロジェクト参加研究者数 21 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
春山 早苗	大学院看護学研究科・研究科長・教授、看護職キャリア支援センター・副センター長	地域ケア実践看護師教育体制の開発、地域ケア実践看護師フォローアップシステムの開発	研究全体の統括と管理
本田 芳香	大学院看護学研究科・教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発、地域ケアスキル・トレーニングプログラムの実施と評価	研究全体の統括と管理
中村 美鈴	大学院看護学研究科・教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの実施と評価	トレーニングプログラムの評価方法の検討と評価
野々山 未希子	大学院看護学研究科・教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発	ケアスキル選定等のための調査の企画・実施・分析とトレーニング内容の検討
半澤 節子	大学院看護学研究科・教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発	トレーニング方法の検討とトレーニングプログラムの作成
宮林 幸江	大学院看護学研究科・教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの実施と評価	トレーニングプログラムの評価方法の検討と評価
大塚 公一郎	大学院看護学研究科・教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発	トレーニング方法の検討とトレーニングプログラムの作成

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

小原 泉	大学院看護学研究科・教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発	ケアスキル選定等のための調査の企画・実施・分析とトレーニング内容の検討
横山 由美	大学院看護学研究科・教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの実施と評価	トレーニングプログラムの評価方法の検討と評価
村上 礼子	自治医科大学看護師特定行為研修センター・教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの実施と評価	トレーニングプログラムの運営・実施
里光 やよい	大学院看護学研究科・准教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発	トレーニング方法の検討とトレーニングプログラムの作成
北田 志郎	大学院看護学研究科・准教授	地域ケアスキル・トレーニングプログラムの実施と評価	トレーニングプログラムの運営・実施
茂呂 悦子	附属病院・看護師長/専門看護師、看護職キャリア支援センター・センター員	地域ケアスキル・ケアトレーニングプログラムの実施と評価	トレーニングプログラムの運営・実施
成田 伸	大学院看護学研究科・教授	地域ケア実践看護師フォローアップシステムの開発	受講者のフォローアップの実施とフォローアップ内容・方法の検討
永井 優子	大学院看護学研究科・教授	地域ケア実践看護師教育体制の開発	医師と看護師の協働体制・教育体制等の実態調査の企画・実施・分析
塚本 友栄	大学院看護学研究科・准教授、看護職キャリア支援センター・センター員	地域ケア実践看護師教育体制の開発	標準的教育体制の指針作成、地域特性・医療施設機能別指針の作成
角川 志徳	大学院看護学研究科・准教授	地域ケア実践看護師フォローアップシステムの開発	トレーニング受講者の成果と課題に関する調査、受講者の所属施設支援内容・方法の検討
石川 鎮清	地域医療学センター地域医療学部門/総合診療部門、医学教育センター・教授	地域ケア実践看護師フォローアップシステムの開発	トレーニング受講者の成果と課題に関する調査、受講者の所属施設支援内容・方法の検討
川上 勝	大学院看護学研究科・准教授	地域ケア実践看護師教育体制の開発	標準的教育体制の指針作成、地域特性・医療施設機能別指針の作成
浅田 義和	メディカルシミュレーションセンター/情報センター・講師	地域ケア実践看護師教育体制の開発	医師と看護師の協働体制・教育体制等の実態調査の企画・実施・分析
福田 順子	大学院看護学研究科・講師	地域ケア実践看護師フォローアップシステムの開発	受講者のフォローアップの実施とフォローアップ内容・方法の検討
(共同研究機関等)			

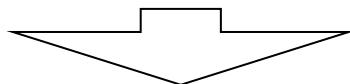
法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
地域ケア実践看護師教育体制の開発	看護学部・講師	千葉 理恵	医師と看護師の協働体制・教育体制等の実態調査の企画・実施・分析

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
メディカルシミュレーションセンター/情報センター・講師	メディカルシミュレーションセンター/情報センター・講師	浅田 義和	医師と看護師の協働体制・教育体制等の実態調査の企画・実施・分析

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

目的・意義:自治医科大学はへき地等地域医療に従事する医師及び看護職の養成を目的としている。わが国は医師の負担増大と地域医療崩壊の危機に直面しており、チーム医療の推進と看護師の役割拡大への期待が高まっている。本事業の目的は、看護師がチーム医療の中で機能できるための卓越した地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発研究並びに地域特性に応じた当該看護師の教育・支援システムの開発研究により、日本型地域ケア実践を開発することである。本事業により、地域ケアを担う人材育成から教育・支援システムの構築まで日本型地域ケア実践が体系化されるとともに、わが国の地域医療における医師と看護師の協働モデルを提示することができ、地域医療の質向上と活性化に寄与する。

計画の概要:平成 25 年度はトレーニング対象とする地域ケアスキル及び教育体制検討のための調査の実施。平成 26 年度は地域ケアスキル・トレーニング項目・方法・教材の検討、トレーニングプログラム第 1 次試案の作成、教育体制の検討と標準的指針の作成。平成 27 年度は第 1 次試案の評価研究の実施、第 2 次試案の作成、地域特性別等の教育体制の検討、フォローアップ内容・医療組織支援内容の検討。平成 28 年度は第 2 次試案の評価研究の実施、トレーニングプログラム完成版の作成、地域特性別等のフォローアップシステムの検討。平成 29 年度は地域ケアスキル・トレーニングプログラムと教育・支援システムを併せた評価。

(2) 研究組織

本研究プロジェクトでは、研究テーマ 1「地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発研究」と研究テーマ 2「地域ケア実践看護師の教育・支援システムの開発研究」を実施している。

①**研究代表者の役割:**研究全体の統括と管理、具体的には企画委員会、研究テーマ 1 と研究テーマ 2 の合同会議及び事業評価委員会の企画・運営を実施した。また、研究テーマ 2 の研究代表者も兼ねていることから研究テーマ 2 の統括と管理を行った。

②**各研究者の役割分担や責任体制の明確さ:**企画委員会において当初計画に照らして研究進行の方向性を確認、合意を得た上で、研究テーマ 1、研究テーマ 2、それぞれの研究代表者が各研究テーマの統括と管理を行った。研究テーマ 1 にはプログラム開発・推進委員会及びプログラム実施・評価委員会を置き、研究テーマ 2 には実践看護師教育システム委員会及び地域ケア実践看護師フォローアップシステム委員会を置き、研究者全てをいずれかの委員会に割り当て、役割分担を明確にし、各研究を推進した。

③**研究プロジェクトに参加する研究者の人数:**研究プロジェクトに参加する主な研究者 21 名の他、看護学部教員 24 名、医学部教員 1 名(地域医療学センター地域医療学/総合診療部門)、附属病院副看護部長 1 名、同看護職キャリア支援センター看護師長 1 名、計 48 名が本プロジェクトに参加した。

④**大学院生等の活用状況:**看護学研究科博士前期課程の学生に地域ケアスキル・トレーニングプログラム第 1 次試案の受講及び評価、中間報告会の運営について協力を得た。

⑤**研究チーム間の連携状況:**研究代表者が招集し、概ね月 1 回、研究テーマ 1 と研究テーマ 2 の合同会議を開催し、相互の研究進捗状況を把握・共有するとともに、連携しながら本研究プロジェクトを進めた。また、本研究プロジェクトを推進するために合同勉強会を実施した。

⑥**研究支援体制:**本学医学部、同地域医療学センター、同メディカルシミュレーションセンター、同附属病院看護部、同附属病院看護職キャリア支援センターの協力を得て実施している。

⑦**下野市(本学所在地)老人クラブとの連携:**地域ケアスキル・トレーニング方法の開発にあたり、模擬患者の育成に取り組んでおり、大学が所在する地域の老人クラブの協力を得ている。

(3) 研究施設・設備等

研究施設の面積及び使用者数: 地域ケア実践演習室 176.0 m² 30 人

研究装置、設備名称及び利用時間数: 「高機能患者シミュレータ iStan」 54 時間

(4) 進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

＜現在までの進捗状況及び達成度＞

平成 25 年度：全国のへき地診療所 833 施設の看護師を対象とした郵送自記式質問紙調査を実施し、へき地診療所における看護体制や看護活動の現状と変化、診療所において医師の指示のもと実施した経験のある診療の補助行為等を明らかにし、へき地で働く看護職の人材育成のために必要となる教育内容・教育体制等の検討に役立つ基礎資料を得た (①)。また、全国のへき地医療拠点病院 261 施設及び 100 床以上 400 床未満の医療機関 268 施設の看護職を対象とした郵送自記式質問紙調査(前年度実施) のデータ分析を実施し、地域医療に求められる実践能力と地域包括ケアのリーダーを担う高度実践看護師の育成のための教育内容・教育体制について示唆を得た (②)。さらに、へき地医療拠点病院 5 施設及び地域中核病院 3 施設を訪問し、看護師 22 名を対象にインタビュー調査を実施し、地域ケアスキル・トレーニングの項目・方法・教材の検討及び地域ケア実践看護師の教育体制の構築を促進又は阻害する要素を検討するための基礎資料を得た (③)。加えて、北関東圏内の地域病院又は訪問看護ステーションの看護職グループ、山村過疎地域にあるへき地医療拠点病院・診療所の看護職グループ、離島にあるへき地医療拠点病院・診療所の看護職グループ、計 3 グループ (16 人) へのグループインタビューを実施し、地域特性を考慮した、地域ケア実践看護師に必要なスキルを明らかにし、教育内容・方法・体制への示唆を得た (④)。

研究テーマ 1 については、①～④の調査結果から卓越した地域ケア実践看護師に必要なスキルを明らかにし、トレーニング対象とする地域ケアスキルを選定し、15 ケアスキル群を決定した。また、シミュレーション教育やナース・プラクティショナー (NP) 教育等について実績のある大学・機関等への施設、並びに、e ラーニングや e ポートフォリオ等 ICT を活用した教育方法に関する情報収集や勉強会を開催し、次年度計画であったトレーニング内容・方法の検討を開始した。

研究テーマ 2 については、①～④の調査結果からへき地診療所、へき地医療拠点病院、その他の地域医療支援病院における医師と看護師の協働の実態、②～④の調査結果からプロトコル作成及び看護師教育体制の実態、③④の調査結果から地域ケア実践看護師の教育体制を促進又は阻害する要素を明らかにした。またトレーニングのターゲットとなる看護師の特徴を明確にした。

平成 26 年度：研究テーマ 1 については前年度の調査結果に基づいて、ケアスキル群毎のアセスメントや臨床判断に必要な知識と技術を整理するとともに、引き続きトレーニング内容・方法・教材を検討した。そして、15 ケアスキル群のトレーニングプログラム及びどのケアスキル群においても必要となる臨床能力にかかわる 4 トレーニングプログラムの第 1 次試案を作成し、次年度計画であった第 1 次試案の実施を進め、またトレーニングプログラムの評価方法を検討し、評価した。具体的には 6 ケアスキル群と臨床能力にかかわる 4 トレーニングプログラムについて、各プログラム 7～12 回の一部又は全部を実施した。教育方法は双方向性のある e ラーニングとし、対象は学内のインターネットにアクセス権を有する本学附属病院看護師、本学大学院看護学研究科学生、へき地医療拠点病院及びへき地診療所への附属病院からの派遣看護師とし、各科目 4～18 人が受講した。評価方法は、受講者に対する ARCS モデルに基づく Web 上でのアンケート及びグループインタビュー (3 グループ、計 14 人) とした。また、地域看護職 (地域病院又は訪問看護ステーションの看護師、山村過疎地域又は離島にあるへき地医療拠点病院・診療所の看護師、計 3 グループ、12 人) に対するグループインタビューとした。

研究テーマ 2 については、本事業の周知と受講者のリクルート活動を行った。また、リクルートした看護師の所属施設の地域特性や施設機能の特性に応じた教育体制を検討し、その結果に基づき、e ラーニングによる教育体制を整備するとともに、シミュレータ教育力の向上のための研修参加や情報収集を行い、高機能患者シミュレータ iStan、その他のシミュレータを用いた教育者側のトレーニングを行った。

平成 27 年度：研究テーマ 1 については前年度の第 1 次試案の評価に基づいて、4 ケアスキル群のトレーニングプログラムの第 2 次試案及び臨床能力にかかわる 9 トレーニングプログラムの完成版を作成した。次年度計画であったこれらのプログラムの実施を進め、前年度と同様の方法で評価した。教育方法は、4 ケアスキル群のトレーニングプログラムについてはより双方向性を向上させた e ラーニングとし、臨床能力にかかわる 9 トレーニングプログラムについては、集合演習や実習も組み合わせたブレンディッドラーニングとした。集合演習は、主に高機能患者シミュレータ iStan、その他のシミュレータを用いた演習とした。本学の e ラーニング利用について外部者の利用環境を整備し、地域ケアスキル・プログラムは各 10 人、臨床能力関連プログラムは各 30 人を目標に、全国のへき地診療所、県内の医療機関・訪問看護ステーション等に周知した結果、目標数を上回る申

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

込みがあり、地域ケアスキル・プログラムは各 15 人とした。11 ケアスキル群のトレーニングプログラムについては、次年度実施に向け完成版を作成するとともに、ICT 及び模擬患者の活用を含めたトレーニング内容・方法・教材を検討した。

研究テーマ2については、前年度と同様、本事業の周知と受講者のリクルート活動を行った。また、第1次試案の教育実施体制の評価から教育体制を見直し改善した。さらにトレーニングプログラム受講後の看護師のフォローアップ内容及び所属施設に必要な支援内容から、受講者の学習支援のためのeポートフォリオを検討した。

達成度：研究テーマ1については概ね当初計画通りに進み、目標も達成している。研究テーマ2については、実施体制の標準的指針の作成及び修了者のフォローアップの実施が未実施であり、やや進行が遅れており、平成27年度までの目標は全て達成していない。

<特に優れた研究成果>

・ へき地診療所看護師が実施経験のある診療の補助行為等を明らかにし (*1)、かつ 医師1人、看護師1人という活動体制の場合の実施状況を明らかにし (**8)、へき地で働く看護職に必要なケアスキルの明確化及び看護師と医師との協働のあり方に示唆を得た。

・ へき地医療拠点病院と100床以上400床未満の医療機関の教育研修体制のニーズと教育研修を阻害する要素を明らかにし (*1)、地域ケア実践看護師の教育・支援システムのあり方に示唆を得た。

・ 平成25年度の調査結果に基づいて、15 ケアスキル群のトレーニングプログラム及び臨床能力にかかわる4トレーニングプログラムの第1次試案を作成した (**1)。

・ 双方向性のあるeラーニングによる6ケアスキル群のトレーニングプログラムと臨床能力にかかわる4トレーニングプログラムを試行的に実施し、プログラムを評価し、山村過疎地といった地域特性やへき地診療所・へき医療拠点病院といった医療施設の機能の多様性があっても本プログラムの受講が可能であり、かつ一定の実践への有用性を確認できた (**3)～8)。

・ 試行的に実施したプログラムの評価に基づき、11 ケアスキル群のトレーニングプログラムの完成版及びより双方向性を向上させたeラーニングによる4ケアスキル群のトレーニングプログラムの第2次試案、集合演習や実習も組み合わせたブレンディッドラーニングによる臨床能力にかかわる9トレーニングプログラムの完成版を作成した。

・ 4 ケアスキル群のトレーニングプログラムと臨床能力にかかわる9トレーニングプログラムを全国のへき地診療等看護師を対象に周知・募集・実施し、プログラムを評価し、本プログラムのニーズがあること、受講者は北海道から九州に及び、地域特性や医療施設の機能の多様性があっても本プログラムの受講が可能であり、かつ一定の実践への有用性を確認できた (**2)。

<問題点とその克服方法>

・ eラーニングを取り入れたトレーニングプログラムの検討にあたり、全ての研究者が十分な ICT に関する知識をもっているわけではなく、研究推進の阻害要因になる可能性があったため、ICT を活用した医学・看護学教育に関する教育・研究実績のある学内研究者の協力を初年度から得て勉強会を開催する等して研究を進めた。また、主な研究者の一人が平成27年度末で退職したため、平成28年度から交代で当該研究者を主な研究者とした。

・ eラーニングのコンテンツづくりやeラーニングによる教育体制の準備に時間と労力がかかり、研究者の負担が懸念されたため、研究補助員の担当部分を検討し、研究者の負担軽減に努めた。

・ 研究テーマ1と研究テーマ2の当初計画について、同時並行としていた計画内容が、実際には研究テーマ1が先行し、研究テーマ1の結果を踏まえて研究テーマ2を進める必要がある場合も多く、各テーマに研究者を割り当てていたが役割を厳格に分けずに、連携・協働して研究活動をした。

<研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見直しを含む。)>

地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律により、保健師助産師看護師法の一部が改正され、平成27年10月から特定行為に係る看護師の研修制度が施行された。本学では看護師特定行為研修センターを立ち上げ、当該研修の指定研修機関に指定され、平成27年10月から研修を実施している。この研修対象は本学の建学の理念を踏まえ、地域特性や施設の規模にかかわらず、看護師が働きながら受講できることを目指しており、本研究プロジェクトの成果である教育内容の一部・教育方法・教育体制の知見を活かしながら実施するとともに、今後も本研究プロジェクトの成果を特定行為研修の精練に活かしていく予定である。

<今後の研究方針>

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

平成 28 年度は特定行為研修として実施される 11 ケアスキル群のトレーニングプログラムと臨床能力にかかわる 9 トレーニングプログラムを実施し、教育方法と教育・支援体制について評価する。また、特定行為研修以外の 4 ケアスキル群のトレーニングプログラムについて、全国のへき地診療等を対象に周知・募集・実施し、プログラムを評価・検証し、完成版を作成する。また、プログラムの地域実践における有用性について、受講生及び受講生の所属施設の管理者等への面接調査を実施し評価・検証するとともに、追加のプログラムの必要性について検討する。

平成 29 年度は、それまでの研究結果に基づいて、トレーニングプログラムと教育・支援システムを併せた評価をする。また、プログラム受講者の受講後の実践への影響について調査する。さらに、研究成果報告会を実施する。

<今後期待される研究成果>

- ・地域ケアスキル・トレーニングプログラム体系化への示唆
- ・地域ケア実践看護師の地域特性及び施設機能を考慮した教育・支援システムの指針
- ・わが国の地域医療における医師と看護師の協働モデル

<プロジェクトの評価体制(自己評価・外部評価を含む。)>

- ・研究テーマ 1、2 の各研究代表者及び 4 委員会の委員長、学内関係者 5 名（附属病院長、看護部長、医学部教員等）及びへき地医療・へき地看護、在宅看護等の学外専門家 6 名（医師、看護師、大学教員）による事業評価委員会を設置し、年 1 回事業評価委員会を開催している。
- ・事業評価委員会の結果も踏まえ、自己評価を兼ねて、毎年度報告書を作成している。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 地域医療 (2) 地域ケア (3) 看護師
 (4) 現職教育 (5) 教育体制 (6) へき地
 (7) 遠隔教育 (8) チーム医療

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

- *1) 江角伸吾、山田明美、中島とし子、鈴木久美子、塚本友栄、関山友子、青木さぎ里、菊地陽、春山早苗：へき地診療所における看護師の診療の補助行為の実施状況－1 2 項目の特定行為（案）に着目して－、日本ルーラル・シグ学会誌、9、47-56、2014、査読有り。
 *2) 菊地陽、塚本友栄、横山由美、永井優子、春山早苗、塚原節子：へき地医療拠点病院と一般病院における教育研修体制のニーズとその障害となっているもの、日本ルーラル・シグ学会誌、9、37-46、2014、査読有り。

<図書>

なし

<学会発表>

- **1) 村上礼子、川上勝、里光やよい、福田順子、横山由美、本田芳香、春山早苗：へき地を含む地域で働く看護師のための地域ケアスキル・トレーニングプログラムの検討、日本地域看護学会 第 19 回学術集会、栃木、2016.8 (予定)。
 **2) 横山由美、村上礼子、川上勝、里光やよい、福田順子、本田芳香、春山早苗 (2016)：へき地を含む地域で働く看護師のための地域ケアスキル・トレーニングプログラムの評価、日本地域看護学会 第 19 回学術集会、栃木、2016.8 (予定)。
 **3) Asada, Y., Honda, Y., Murakami, R., Esumi, S., Iizuka, Y., Haruyama, S. :Design and development of the e-learning course for the nurses who perform medical auxiliary acts, AMEE (Association for Medical Education in Europe) 2015 eLearning Symposium, Glasgow, UK, 2015.9.
 **4) 村上礼子、関山友子、中村剛史、春山早苗：地域ケアスキル・トレーニングプログラム「臨床推論・フィジカルアセスメント」の検討－現任看護師を対象とした e-learning 教育の試みから－、日本ルーラル・シグ学会 第 10 回学術集会、栃木、2015.8。
 **5) 長谷川直人、横山由美：看護師特定行為「血糖コントロールのための薬剤投与関連」における講義

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

科目のトライアル結果報告、日本ルーラルナース学会 第10回学術集会、栃木、2015.8.

**6) 千葉理恵、半澤節子、石井慎一郎、永井優子：現任看護師を対象とした e-learning による認知症看護教育プログラムの作成・試行と評価、日本ルーラルナース学会 第10回学術集会、栃木、2015.8.

**7) 塚本友栄、島田裕子、青木さぎ里、根來利佳子：現任看護師対象の e-learning による退院支援・調整教育プログラムの開発・試行と評価、日本ルーラルナース学会 第10回学術集会、栃木、2015.8.

**8) Esumi, S., Suzuki, K., Tsukamoto, T., Shimada, H., Sekiyama, T., Aoki, S., Haruyama, S. : Survey of specified acts of medical assistance to be provided by nurses in rural and remote area clinics, 18th East Asian Forum of Nursing Scholars, Taiwan, 2015.2.

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

・日本型地域ケア実践開発研究事業中間報告会（日本ルーラルナース学会第10回学術集会合同開催）、自治医科大学地域医療情報研修センター、2015年8月28日-29日。

内容：事業の概要、中間報告、シンポジウム「看護師の役割拡大と医師との協働」、海外研究者招聘講演「Mix Methods を用いた看護研究」

・研究事業の概要及び平成25年度報告書、平成26年度報告書のホームページへの掲載

http://www.jichi.ac.jp/graduate_n/care/index.html

<これから実施する予定のもの>

・平成29年度 研究成果報告会

14 その他の研究成果等

・15 ケアスキル群のトレーニングプログラム：高齢者看護Ⅰ（急性期）、高齢者看護Ⅱ（終末期）、高齢者看護Ⅲ（認知症）、退院支援・調整と多職種連携、呼吸器（気道確保に係るもの）関連、呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連、ろう孔管理関連、栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連、創傷管理関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連、感染に係る薬剤投与関連、血糖コントロールに係る薬剤投与関連、循環動態に係る薬剤投与関連、精神及び神経症状に係る薬剤投与関連、皮膚損傷に係る薬剤投与関連

・臨床能力にかかわる9トレーニングプログラム：臨床推論/フィジカルアセスメントⅠ、臨床推論/フィジカルアセスメントⅡ、病態生理/疾病論Ⅰ、病態生理/疾病論Ⅱ、臨床薬理学、医療安全学、特定行為と手順書、特定行為基礎実習Ⅰ、特定行為基礎実習Ⅱ

・DVD教材「医療コミュニケーション力を育てるために」（目的は模擬患者候補者に模擬患者の理解を促し、参加協力を得ること）

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

<「選定時」に付された留意事項>

アドバイザーや外部評価委員を含め、医療系の研究者の参画が望ましい。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

当初より、主な研究者に地域医療の教育研究実績のある医学部教員及び附属病院看護師がいるが、これ以外に同様の医師1人、附属病院副看護部長1名、同看護職キャリア支援センター看護師長1名を研究協力者とした。また、事業評価委員として附属病院長、看護部長、医学部教員等を学内委員に、へき地医療・へき地看護、在宅看護等に精通している医師、看護師を学外委員とした。

これにより、医療現場の実際に即した意見が得られ、また本研究プロジェクトの地域ケアスキル・トレーニングのプログラムづくりや実施において、附属病院の医師・看護師の協力が得られやすくなった。

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成25年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	20,405	10,204	10,201				
平成26年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	12,997	4,332	8,665				
	研究費	13,428	6,903	6,525				
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	30,298	15,158	15,140				
総額	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	12,997	4,332	8,665	0	0	0	
	研究費	64,131	32,265	31,866	0	0	0	
総計	77,128	36,597	40,531	0	0	0		

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

_____ m²

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
(研究設備)				h			
高機能患者シミュレーターiStan	H26年度	iStanVER6標準セット(ISTAN-100)	1	54 h	12,997	8,665	私学助成
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			

18 研究費の支出状況

(千円)

年度	平成 27 年度		
小科目	支出額	積算内訳	
		主な用途	金額
教育研究経費支出			
消耗品費	11,334,133	eラーニングライセンス契約料 spss統計ソフト その他	405,000 904,284 10,024,849
印刷製本費	150,120	ポスター印刷費	150,120
旅費交通費	2,918,581	外部事業評価委員の旅費 グループインタビュー調査協力者旅費 その他	53,570 238,210 2,626,801
報酬・委託料	617,211	謝礼 その他	274,611 342,600
役務費	836,301	会場設営費 通訳料 その他	270,000 216,000 350,301
賃借料	576,301	ホテル宿泊費 会場借上げ料	32,656 543,645
雑費	108,870	昼食代 その他	54,276 54,594
計	16,541,517		16,541,517
アルバイト関係支出			
人件費支出 (兼務職員)	4,587,821	研究業務補助(資料作成、会議議事録作成、年度報告書作成等)	532,530 750,198 427,205 42,133 1,248,240 1,587,515
教育研究経費支出			時給2,020円 年間時間数168時間 1名 時給2,020円 年間時間数314時間 1名 時給830円 年間時間数382時間 1名 時給830円 年間時間数46時間 1名 時給1,840円 年間時間数776時間 1名 時給2,000円 年間時間数524時間 1名
計	4,587,821		4,587,821
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	9,169,372	気管切開ケア・シミュレーター 胸腔ドレーナージ・穿刺トレーナー 末梢挿入中心静脈カテーテル PICCシミュレーター 動脈採血シミュレーター CVC穿刺挿入シミュレーター 汎用性超音波画像診断装置 膀胱ろうシミュレーター 経管栄養シミュレーター ノートパソコン等	450,360 2,165,940 439,020 269,460 706,320 2,980,800 226,800 644,760 1,285,912
図書			教育プログラムの受講生が演習で使用するためのシミュレーター 当該研究事業の調査結果等のデータ管理
計	9,169,372		9,169,372
研究スタッフ関係支出			

(様式1)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

リサーチ・アシスタント				学内○人、学外○人、外国○人
ポスト・ドクター				学内○人、学外○人、外国○人、学振○人
研究支援推進経費				学内○人、学外○人、外国○人
計	0			学内○人、学外○人、外国○人、学振○人

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成25年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	20,405	10,204	10,201				
平成26年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	12,997	4,332	8,665				
	研究費	13,428	6,903	6,525				
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	30,298	15,158	15,140				
総額	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	12,997	4,332	8,665	0	0	0	
	研究費	64,131	32,265	31,866	0	0	0	
総計	77,128	36,597	40,531	0	0	0		

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

_____ m²

(様式1)

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)	H26年度	iStanVER6標準セット(IStan-100)	1	54 h	12,997	8,665	私学助成
高機能患者シミュレータiStan				h			
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			
				h			
				h			

18 研究費の支出状況

(千円)

年度	平成 26 年度		
小科目	支出額	積算内訳	
		主な用途	金額
教育研究経費支出			
消耗品費	1,423,295	e-learningライセンス契約料 褥瘡ケアモデル その他	313,200 89,250 1,020,845
印刷製本費	14,970	文献複写費	14,970
旅費交通費	1,918,585	外部事業評価委員の旅費 グループインタビュー調査協力者旅費 その他	95,630 480,075 1,342,880
報酬・委託料	639,071	謝礼 その他	150,000 489,071
役務費	215,686	ホームページ掲載料 その他	16,200 199,486
賃借料	616,885	会場借上げ料	616,885
雑費	554,701	事業評価委員会昼食代 その他	74,634 480,067
計	5,383,193		5,383,193
アルバイト関係支出			
人件費支出 (兼務職員)	5,280,019	研究業務補助(資料作成、会議議事録作成、年度報告書作成等)	3,838,771 1,441,248
教育研究経費支出			
計	5,280,019		5,280,019
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	2,764,800	バーチャルi.v CPS実習ユニット	2,273,400 491,400
図書			
計	2,764,800		2,764,800
研究スタッフ関係支出			
リサーチ・アシスタント			学内○人、学外○人、外国○人
ポスト・ドクター			学内○人、学外○人、外国○人、学振○人
研究支援推進経費			学内○人、学外○人、外国○人
計	0		学内○人、学外○人、外国○人、学振○人

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成25年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	20,405	10,204	10,201				
平成26年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	12,997	4,332	8,665				
	研究費	13,428	6,903	6,525				
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	30,298	15,158	15,140				
総額	施設	0	0	0	0	0	0	
	装置	0	0	0	0	0	0	
	設備	12,997	4,332	8,665	0	0	0	
	研究費	64,131	32,265	31,866	0	0	0	
総計	77,128	36,597	40,531	0	0	0		

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

_____ m²

法人番号	131102
プロジェクト番号	S1311031

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
(研究設備)				h			
高機能患者シミュレーターiStan	H26年度	iStanVER6標準セット(ISTAN-100)	1	54 h	12,997	8,665	私学助成
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			

18 研究費の支出状況

(千円)

年度	平成 25 年度		
小科目	支出額	積算内訳	
		主な用途	金額
教育研究経費支出			
消耗品費	1,757,278	演習用シミュレータの付属備品 教育プログラム作成のための書籍 その他	39,480 357,378 1,360,420
印刷製本費	140,425	文献複写費 その他	11,490 128,935
旅費交通費	2,353,385	外部事業評価委員の旅費 その他	158,020 2,195,365
報酬・委託料	2,037,788	業務補助者の委託料 その他	1,602,408 435,380
役務費	275,746	チラシ郵送代 その他	133,696 142,050
賃借料	533,299	会場借上げ料 その他	527,299 6,000
雑費	643,094	事業評価委員会昼食代 その他	76,769 566,325
計	7,741,015		7,741,015
アルバイト関係支出			
人件費支出 (兼務職員)	3,238,653	研究業務補助(資料作成、会議議事録作成、年度報告書作成等)	1,963,186 1,275,467
教育研究経費支出			
計	3,238,653		3,238,653
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	9,425,640	動脈採血シミュレータ 外傷・救急超音波教育ユニット 気道管理トレーナー 喉頭鏡セット マッキントッシュ型 AEDレサシアントレーニングシステムスキルガイドモデル 新規提案シミュレーター 評価型気道管理シミュレーター 喉頭鏡セット イングリッシュマッキントッシュ型 動脈採血シミュレータ M99	250,320 3,780,000 218,400 117,600 239,400 4,452,000 117,600 250,320
図書			
計	9,425,640		9,425,640
研究スタッフ関係支出			
リサーチ・アシスタント			学内○人、学外○人、外国○人
ポスト・ドクター			学内○人、学外○人、外国○人、学振○人
研究支援推進経費			学内○人、学外○人、外国○人
計	0		学内○人、学外○人、外国○人、学振○人